

認 定 書

国住参建第 3600 号
令和 7 年 12 月 16 日

大栄産業株式会社
代表取締役 木村 雄三 様

国土交通大臣 金子 恭之

下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 35 条第 1 項の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
DW3N-0192
2. 認定をした構造方法等の名称
分離嫌気ろ床担体流動方式 FCXⅢ型/12～50 人/合併処理浄化槽/汚物処理性能
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

構造方法の概要

1. 件名	分離嫌気ろ床担体流動方式 FCXⅢ型／12～50人槽／ 合併処理浄化槽／汚物処理性能
2. 処理区分	合併処理
3. 設計	大栄産業株式会社
4. 維持管理頻度等	保守点検頻度:3回／年以上 12～20人槽 :4回／年以上 21～50人槽 清掃頻度:1回／年以上 (汚泥引抜対象単位装置名:沈殿分離槽、嫌気ろ床槽)
5. 構造方法の概要	沈殿分離槽、嫌気ろ床槽、担体流動槽、沈殿槽および消毒槽を組み合わせた 合併処理浄化槽
6. 参考事項	・「7. 装置の概要」の「(4)流入水質」は、標準水質とし、し尿及びこれと併せた 雑排水(工場排水、雨水、その他の特殊な排水を除く)とする。 ・用語説明 BOD : 生物化学的酸素要求量 COD : 化学的酸素要求量 SS : 浮遊物質 T-N : 全窒素 pH : 水素イオン濃度指数 PE : ポリエチレン

7. 装置の概要	
(1)処 理 方 式	分離嫌気ろ床担体流動方式
(2)処理対象人員	12 ～ 50[人]
(3)日平均汚水量	2.4 ～ 10.0[m ³]
(4)流 入 水 質	BOD : 200[mg/L] COD : 100[mg/L] S S : 160[mg/L] T - N : 45[mg/L]
(5)処 理 水 質	BOD : 20[mg/L]以下 COD : 30[mg/L]以下 T - N : 20[mg/L]以下 S S : 20[mg/L]以下 p H : 5.8～8.6 大腸菌数 : 800[CFU/mL]以下
(6)処 理 工 程	<pre> graph TD A[流入] --> B[1) 沈殿分離槽] B --> C[2) 嫌気ろ床槽] C --> D[3) 担体流動槽] D --> E[4) 沈 殿 槽] E --> F[5) 消 毒 槽] F --> G[放流] E -.-> 循環 B </pre>

(7)各単位装置の概要	
1) 沈殿分離槽	沈殿分離槽の働きは、夾雑物などの除去と汚泥の貯留である。 ・沈殿分離槽の必要容量は日平均汚水量 $Q[m^3/日]$ に対して 13.67 時間分に相当する容量とし、有効容量はそれ以上とする。 $V[m^3] \geq Q[m^3/日] \div 24[時間/日] \times 13.67[時間]$ ・有効水深は 1450[mm]以上 1950[mm]以下とする。
2) 嫌気ろ床槽	嫌気ろ床槽の働きは、夾雑物の除去、汚泥貯留、酸化態窒素の脱窒である。 ・嫌気ろ床槽の必要容量は日平均汚水量 $Q[m^3/日]$ に対して 11.5 時間分、及び BOD 容積負荷 $0.418[kg/m^3 \cdot 日]$、T-N 容積負荷 $0.094[kg/m^3 \cdot 日]$ に相当する容量の最大値とし、有効容量はそれ以上とする。 $V1[m^3] \geq Q[m^3/日] \div 24[時間/日] \times 11.5[時間] \quad (\text{日平均汚水量})$ $V2[m^3] \geq Q[m^3/日] \times 0.2[kg/m^3] \div 0.418[kg/m^3 \cdot 日] \quad (\text{BOD 容積負荷})$ $V3[m^3] \geq Q[m^3/日] \times 0.045[kg/m^3] \div 0.094[kg/m^3 \cdot 日] \quad (\text{T-N 容積負荷})$ ・槽内には $\phi 154 \pm 10[mm]$ の骨格様球状ろ材で材質 PP または PE 製、比表面積 $66.7[m^2/m^3]$ (試験した材質: PP、これと通水試験による汚泥の捕捉性、短絡試験の結果から同様の効果が得られると指定性能評価機関において判断されるものを採用できるものとする。)を密に充填する。 ・ろ材の必要充填量は嫌気ろ床槽の必要容量に対して 58 [%]、及びろ材厚が有効水深に対して 59[%]となる充填量の最大値とする。 ・有効水深は 1450[mm]以上 1950[mm]以下とする。
3) 担体流動槽	担体流動槽の働きは BOD 除去、COD 除去と硝化である。常時ばっ気され、担体表面に付着した微生物の働きにより汚水中の有機物を分解・除去する ・担体流動槽の必要容量は日平均汚水量 $Q[m^3/日]$ に対して 7.76 時間分、及び BOD 容積負荷 $0.619[kg/m^3 \cdot 日]$、T-N 容積負荷 $0.140[kg/m^3 \cdot 日]$ に相当する容量の最大値とし、有効容量はそれ以上とする。 $V1[m^3] \geq Q[m^3/日] \div 24[時間/日] \times 7.76[時間] \quad (\text{日平均汚水量})$ $V2[m^3] \geq Q[m^3/日] \times 0.2[kg/m^3] \div 0.619[kg/m^3 \cdot 日] \quad (\text{BOD 容積負荷})$ $V3[m^3] \geq Q[m^3/日] \times 0.045[kg/m^3] \div 0.140[kg/m^3 \cdot 日] \quad (\text{T-N 容積負荷})$ ・槽内には直径 $\phi 18 \pm 1.5 [mm]$、長さ $18 \pm 1.5 [mm]$ の凹凸円筒状担体で材質 PP または PE 製、比重 $0.96[g/cm^3]$、比表面積 $325[m^2/m^3]$ (試験した材質: PE、これと耐久性、親水性、比重等の物性が同等以上であり、実験により流動性、微生物付着性、BOD 等処理性能が同等以上と指定性能評価機関において判断されるものの採用できるものとする。)を充填する。充填量は担体流動槽必要容量の 47[%]とする。 ・ばっき強度は $4.0[m^3/m^3 \cdot 時間]$以上とする。 ・有効水深は 1450[mm]以上 1950[mm]以下とする。

4) 沈殿槽	沈殿槽はホッパー式で、重力沈降により処理水中のSSの除去を行う。 ・沈殿槽の必要容量は日平均汚水量 $Q[m^3/日]$ に対して 5.34 時間分に相当する容量とし、有効容量はそれ以上とする。 ・水面積負荷は $6.58[m^3/m^2 \cdot 日]$ 以下、越流せき負荷は $13.2[m^3/m \cdot 日]$ 以下とする。 $V[m^3] \geq Q[m^3/日] \div 24[時間/日] \times 5.34[時間]$ $S[m^2] \geq Q[m^3/日] \div 6.58[m^3/m^2 \cdot 日]$ $L[m] \geq Q[m^3/日] \div 13.2[m^3/m \cdot 日]$ ・空気を動力とする循環移送装置を有し、沈殿分離槽へ日平均汚水量の 2.5 倍の循環水を移送できる構造とする。 ・底部フラット部は長手方向 480[mm] 以下、幅方向 1200[mm] 以下とする。 ・有効水深は 1400[mm] 以上 1900[mm] 以下とする。
5) 消毒槽	汚水の固形塩素接触による消毒作用を有効に継続して行うことができる構造とする。 ・消毒槽の必要容量は日平均汚水量 $Q[m^3/日]$ に対して 14.4 分分に相当する容量とし、有効容量はそれ以上とする。 $V[m^3] \geq Q[m^3/日] \div 1440[分/日] \times 14.4[分]$

認 定 書

愛知県知多郡美浜町大字北方字西側85-1

大栄産業株式会社

代表取締役 木村 雄三

さきに申請のあった下記の浄化槽の型式については、建築基準法及びこれに基づく命令で定める構造基準に適合すると認められるので、浄化槽法第13条第1項の規定に基づき、工場において製造される浄化槽の型式として認定する。

令和8年4月28日

国土交通省中部地方整備局長

森本 輝



記

1. 認定番号等

別紙のとおり

2. 別添図書

- (1) 型式適合認定書の写し
- (2) 製造方法及び製造設備の概要を記載した書面
- (3) 検査方法及び検査設備の概要を記載した書面
- (4) 施工要領書
- (5) 維持管理要領書

別紙

認定番号	浄化槽の名称	工場の所在地及び名称	浄化槽の概要		
			処理方式	処理対象 人員 (人)	日平均汚水量 (m ³ /日)
5-26-H-001	ダイエー浄化槽 FCX12CⅢ型	愛知県知多郡美浜町大字北方字柿谷 3-5 大栄産業株式会社 東海マリン工場	建築基準法第 68 条の 25 第 1 項の規定に 基づき、同法 施行令第 35 条第 1 項の規 定に適合する 分離嫌気ろ床 担体流動方式	12	2.4
5-26-H-001-1	ダイエー浄化槽 FCX14CⅢ型	北海道歌志内市字文珠 159 番地 9 大栄産業株式会社 北海道工場		14	2.8
5-26-H-001-2	ダイエー浄化槽 FCX15CⅢ型	宮城県栗原市若柳武鎗字猿田沢 15 番 地の 43 若柳化成工業株式会社		15	3.0
5-26-H-001-3	ダイエー浄化槽 FCX16CⅢ型	栃木県芳賀郡益子町大字塙 355 有限会社協栄工業		16	3.2
5-26-H-001-4	ダイエー浄化槽 FCX18CⅢ型	沖縄県中頭郡西原町字小那覇 680 番 地 琉球設備工業株式会社		18	3.6
5-26-H-001-5	ダイエー浄化槽 FCX20CⅢ型	愛知県知多郡美浜町大字北方字稲道 11 大栄産業株式会社 東海樹脂工場		20	4.0
5-26-H-001-6	ダイエー浄化槽 FCX21CⅢ型			21	4.2
5-26-H-001-7	ダイエー浄化槽 FCX25CⅢ型	大分県豊後大野市三重町百枝 1247 番 地 1 大分工業株式会社		25	5.0
5-26-H-001-8	ダイエー浄化槽 FCX28CⅢ型	愛媛県宇和島市津島町近家甲 1607-8 株式会社ダイキアクシス 津島工場		28	5.6
5-26-H-001-9	ダイエー浄化槽 FCX30CⅢ型			30	6.0
5-26-H-001-10	ダイエー浄化槽 FCX33CⅢ型	長野県佐久市田口 5574-2 株式会社ダイキアクシス 信州工場		33	6.6
5-26-H-001-11	ダイエー浄化槽 FCX35CⅢ型	福島県福島市山田字赤仁井田 100-7 株式会社ダイキアクシス 福島工場		35	7.0
5-26-H-001-12	ダイエー浄化槽 FCX38CⅢ型			38	7.6
5-26-H-001-13	ダイエー浄化槽 FCX40CⅢ型	愛媛県東温市則之内甲 2357-5 株式会社ダイキアクシス 松山工場		40	8.0
5-26-H-001-14	ダイエー浄化槽 FCX42CⅢ型			42	8.4
5-26-H-001-15	ダイエー浄化槽 FCX45CⅢ型			45	9.0
5-26-H-001-16	ダイエー浄化槽 FCX48CⅢ型			48	9.6
5-26-H-001-17	ダイエー浄化槽 FCX50CⅢ型		50	10.0	

型式適合認定書

BCJ基型－JS04989

令和8年4月8日

大栄産業株式会社

代表取締役 木村 雄三 様

一般財団法人日本建築センター
理事長 橋本 公博



下記の型式については、建築基準法第68条の10第1項(同法第88条第1項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法第1章から第3章までの規定又はこれに基づく命令の規定のうち同法施行令第136条の2の11に掲げる一連の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

型01CadOa0204989

2. 認定をした型式に係る建築物の部分又は工作物の部分の種類

合併処理浄化槽

3. 認定をした型式の内容

ダイエー浄化槽FCX20CⅢ型

詳細内容は、別添仕様書及び図面による。

4. 一連の規定に適合するための適用条件

浄化槽法の規定に基づく適正な工事および適正な保守点検を実施すること。

(注意)この認定書は、大切に保存しておいてください。

型式適合認定書別添仕様書及び図面	建築基準法施行令第35条第1項の大臣認定による分離嫌気ろ床担体流動方式 【大臣認定番号（認定年月日）：DW3N-0192（令和7年12月16日）】		
槽の容量及び寸法	平面図		
	嫌気ろ床槽詳細図		
	消毒槽立体図		
	A-A断面図		
	B-B断面図		
	C-C断面図		
	材料・材質及び機械設備の仕様	仕様表	
		注：寸法の単位はmm、容量の単位はm ³ とする。	
		・騒音、振動、防虫、防臭対策は必要に応じて行う。 ・流入、設置条件によりオプション槽を組み合わせる。	

